

# ひまわりからの

## メッセージ

25号

2013. 4. 9

西濃園域  
発達障害支援センター  
ひまわり

発行人: 中野み子

### 一瞬の出会いに

感じられるもの



毎年、四月二日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。そこで私も保護者の方々や役所の方々と一緒に、啓発のビラとグッズを大垣駅前で配りました。駅には様々な人々が集まってきました。学生、サラリーマン、年配の方々等、一人ひとりが各々の人生を生きて、その一瞬だけを私とかかわって下さるわけです。「すみません、お願いします」と声をかけると、歩みを止めて受け取って下さる方、迷惑そうに通り返る方、会わないように遠回りされる方など対応も実に様々です。「もういたいただきましたよ」とおっしゃる方もありましたし、傘をさ

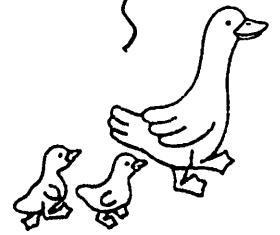
さして歩いていらした老婦人は「ごめんなさい。片手がマヒなので、受け取れなくて……」と詫言いで通り返して行かれました。

行き交う人々を見ているうちに、面白いことに受け取って下さる人と、そうでない人とがかなりの確率で見分けられるようになってきました。もちろん、多分受け取るはいただけないだろうと思いつつも、一応は声をかけてみるということはやっていましたが……結果は予想通りでした。判断の差は何だろうかと考えてみると、それは、その人の持つ雰囲気、表情なのかなと思います。

子どもたちも、私たちに出会った時に、一瞬に見分けてしまいうちも持っているように思います。自分を理解しようとしてくれる人なのか、そうではないのか……大人同士であれば少し話すごとで分かり合えるということもありますが子どもたちは、きつと純粋な目で私たち大人の本当の姿を知るのだらうと思います。私たち大人とは違う判断の目を通して見られる私自身はどんな姿なのだろうかと……そんなことを思った一日でした。

## 学校と家庭の協力

### ～家庭生活の見直し～



新年度がスタートして一ヶ月余り経ちました。

今までの経験から、大体連休明けくらいから保護者の方からの相談がふえてきます。今年も例年通りといったところでしょうか……

発達障がいや、その特性をもつ子どもたちにとっては、担任が代わるということは、想像以上に大きな変化であるということも、私達はもっと知っておくべきではないかと思えます。

新一年生は、園から学校という環境の変化が、おそらく子どもたちの困り感として現れてくるだろうと予測してスマイルブック（サポートブック）を介して、学校での受け入れ体制がとられてきています。大垣市の場合は、引きつぎ後の見届け訪問も五月から始まっています。手厚く支援の引きつぎをしている一年生は、訪問しても「問

題ありません。どうしてスマイルブックが必要だったのかわかりません」などと言われることも多いものです。学校全体が協力し合って支えていくという体制が考えられているからです。

ところが、二年、三年と年を重ねてくると、学習はますます難しくなり、しかも学年をまたいだ時の支援の引きつぎは、まだまだ十分ではなさそうです。

具体的なことは、や、多くの刺激が入りすぎないような環境の整備、特性を知った様々な試み……その年の担任の先生と積み上げてきたものが、担任が代わったとたんに崩れてしまうことも多いのです。けれど、先生方も子どもたちを何とかしたい、どのようにしていいかわからないのか……と悩んでおられます。お父さん、お母さんは親として子どもに責任を負っていく立場にあります。先生方も担任した一年の責任があります。家庭と学校が協力し合っていないと、子どもはうまく育っていきません。担任の先生と本音で話せる関係ができるといいですね。今年もそんなお父さん、お母さんができるといいと思っています。

今回は、家庭生活の中でできていることを見直してみよう。ただ、まず最初に確認したいことは、

お子さんの特性、個人内差などは、お母さんの育て方のせいでも、愛情不足のせいでもありません!!

けれども、育てにくさや子育ての不安から、お子さんに合っていない育て方をしているかもしれない。お子さんに対して、「これ位のことはしてほしい」という親としての願いがあるとは思いますが、あせってもうまくいきません。一つ一つ取り組んでいくことが大事です。

① 生活の中で一貫したルールを決め、つくったルールは必ず守らせよう!!

これには、まず両親の間でよく話し合ってください。A/D/H/Dのタイプのお子さんに、最初からいくつものルールを作っても、まずできないでしょう。生活の中で家庭環境を整えましょう。例えば「テレビは〇時まで」と決めたり、大人も子どもの手本になっていただきたいと思ったり、「片づけはいつも同じ場所に」というル

ールであれば、お父さんも協力していただきたいのです。子ども一人にルールを守らせるといふのではなく、家族全員が改善に向けて努力することが大切だと思います。

・時間をつぶすためにゲームをさせてませんか?  
・テレビを長時間見せていませんか?

・大人の会合や買物などに夜遅くまで連れ回していませんか?

・夜遅くまで親と一緒に遊んでいませんか?

子どもたちの中には、自分の好きなことを優先させてしまっている子がいます。時間の感覚が身につかず、宿題などやるべきことをやらない、遊びに行ったりいつまでたっても帰ってこない、起きる時間や寝る時間が守れないなど、A/D/H/Dのタイプの子に多いように思います。そして、お母さんがうるさく言うところ「ウゼー」とか「ウルセー」とか暴言を吐く子もいるようです。

子どもたちに規則正しい生活を送らせるためには、まず今までの生活を見直し、例えば休日であっても、いつもと同じ時間に起きるといふことから始めてみるのも

いいと思います。

② 外出先のわがままには、冷静に接する。

よく見る光景は、スーパーマーケットなどで泣き叫んでいる子どもです。三歳位の子どもの自己主張では、よく見受けられますが、発達障がいのお子さんは、大きくも泣いても泣いて叫んで意見を通そうとし、泣き、叫べば通ると思っているとありますが、お母さんはそれをパニックと呼び、「できるだけパニックを起させないようにしている」と言われます。でも、わがままを言って自分の要求を通そうとすることとパニックとはまがってはいないでしょうか？

子どもたちの中には、感覚の過敏さがあって、大きい音が不意に聞えたりすると、不安や恐怖のためにパニックをおこすことがあります。

しかし、人に負けた、一番にならなかった、自分の要求が通らなかったという時の行動は、(それが小学生以上の場合には)幼児期から全て要求が通っていた結果であろうと思っています。そして、泣き叫んだ

ら要求が通ることを、子どもは経験として学んでいきます。そういう意味では、子どもたちは大人のうわてをいつているのです。

欲しいゲームを買おうように要求してくる子はどの程度の声であれば、大人が折れて要求が通るのかを知っています。買えないものは、「買いません」と毅然とした態度で接することが大切です。その時、「ダメよ」と言うだけでは納得しないでしょう。

子どもの大声に合わせてこちらも大声を出したり、かん高い声になると、子どもの感情はいつまでも落ちつきません。声のトーンは低くして「うはしません」「うは買いません」と、ゆずらないことです。くどくどと説明したり、なだめようとしたりせず、気持ちがおちつくまで、少し離れていることも必要です。

子どもの要求は、年齢が高くなればなる程、エスカレートしていきます。「大きくなったらわかる」などと思つて幼児期をすぎると、大きくなったらもっと手がつけられなくなることを覚悟しておくべきでしょう。

大声で泣き叫んだけれど、がまんできた時には、「よくがまんしたね」と、ほめことをせねばにり。出来てあたり前ではないのですから……。

### ③ 宿題ができない子につき合って

お母さん方にとって、宿題をせずブラブラしていたり時間がかかって親子ともに毎日疲れてしまうなど、宿題の悩みは尽きないようですね。

では、何故できないのでしょうか。おそらく一番の原因は勉強に対する苦手意識だろうと思います。誰でもそうですが、苦手なことに挑戦するのは、かなりハードルが高いものです。おまけに「勉強したの？」、「早くやりなさい。」などとうるさく言われると、子どもたちの気持ちはますます勉強から離れていってしまいます。先生からは「お家を見てあげて下さい」と言われると、がんばってやらせなくては……と思うのが親心です。

そのためには、まず環境を整えましょう。

テレビも消して、家族全員が宿題体制に入ります。余分な刺激が入って来ないように、机や、へやの中のものは片づけます。そして、子どもが興味をもっているも

のかう始めてみましょう。どの教科ならできるか、子どもと相談してみるのもいいかもしれません。苦手な科目であれば、そばについて見届けていく必要があるでしょうが、過剰な声かけは逆効果にもなります。

私も昔、失敗したことがあります。『どうしてわからないの？』とか『どこがわからないの？』言っでごらん。』というふうなことは、子どもの意欲を減退させてしまっています。苦手な教科だからたくさんやらせて苦手を克服させようと思いがちですが、実は逆なのです。無理のない量で『できた！』と充実感をもてることの方が、次の意欲につながるのです。

宿題が終わるまで時間がかかって、深夜になってしまふと言われたお母さんがいましたが、これでは親も子も疲れてしまいます。文字を書き出すのに時間がかかる場合は、文字を記憶しておく力が弱いのか、筆先の問題なのか、集中力の問題なのか、担任の先生と相談してみまう。そして宿題の量をへうしてもらったり、宿題や勉強をやる曜日を決めたりすることも考えてみましょう。

そして、カレンダーなどにマークをつけ、がんばってできたことをほめると共に、自分の目で見て花まるの数を確かめ、そのことが次の意欲につながるようになるというと思うのです。

こういった試みをしてても学習意欲がわいてこない場合、エネルギーの補給が必要かもしれません。一緒にキーやヤキそばを作ったり、家族でレジャーを楽しむなど、心や体を解放させることも考えてみましょう。

学習の基本には「聞く」ということがあります。音あて遊びや聞いたことばのまねや、聞いたことばをおぼえておいて書くあそびなど、低学年のときには、あそびの要素も入れて、楽しく「できた」という達成感が味わえるといいと思います。

お父さんやお母さんは毎日忙しくていうっしやるでしょうが、子どもと向き合う時間をせめて十五分位は作っていただけないでしょうか。子どもとふれ合える時間というのは、それ程多くはありません。すぐに子どもは大きくなって、親とかわかることを拒むようになってきます。そ

れはもちろんです。子どもの成長ですけれども、「あの時しておけば良かった……」と悔んでも、過ぎ去った時間を取り戻すことはできませんから……。

私は体を使って子どもたちと遊ぶ体力はないので、最近はや達検査などの後に、握手をして、握力くらべをしてみたり、腕ずもうや指ずもうをしてみたり、動作のまねっこあそびをしてみたり……ほんの少しの時間を楽しんでいきます。検査から解放されて、子どもたちの表情が輝くのを見て、私も子どもたちに力をもらった気がします。

子どもって楽しい!! 子どもってすばらしい!!  
そう思いませんか?

お知らせ

○五月十九日(日)十時～ スイトピアセンターにて  
オプトメトリスト 谷口光之先生の講演会

申込みは 大垣市社会福祉課へ

○六月の親の会は十一日(火)

「表現する力を育てる」をテーマに。